様式3

学 校 番 号

22

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立八幡中央高等学校　定時制課程

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

			評価（総合）
学校運営方針	本校のスクールミッションに基づき、スクールポリシーを踏まえた教育実践により、豊かな人間性を身につけ、自己の力で未来を切り拓き、地域や社会に広く信頼され、貢献できる生徒を育成する。		
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
昨年度も新型コロナウイルス感染症により教育計画の変更が必要となったが、指導内容や学校行事の工夫、生徒への個別対応に努めることで一定の目標は達成できた。定時制に進学する生徒は、個別の教育支援を必要とする場合が多く、その数は年々増加している。家庭状況や学習状況、発達段階などを踏まえ、外部との連携や教員間の密な情報共有、職員研修を行い、就学保障及び進路保障の充実を目指す。	1.「主体的、対話的で深い学び」の充実	基礎基本からの学び直しを通じて学習への意欲を喚起し、協働的な活動から思考を深める「主体的、対話的で深い学び」の充実を図る。	
	2. 積極的な個別の教育的支援	カウンセリングマインドを身につけた教職員が、生徒個別の教育的支援を積極的に行い、最大限の就学保障に取り組む。	
	3. 安心できる「学び」の環境づくり	多様性を認め、自他を尊重し、いじめや差別のない安心して学ぶことができる教育環境をつくる取組を促進する。	
	4. 豊かな人間性を育む取組	生徒主体の学校行事や、各種活動に積極的に参加させ、自己存在感・自己肯定感・共感的人間関係を育成する。	
	5. 夢と志の実現への支援	発達段階に応じたキャリア教育を行い、主体的な進路選択・決定を支援し、社会参加への意識を高める指導を行う。	
	6. 学校力の向上	地域や外部団体との連携による「社会に開かれた学校づくり」、校内外職員研修の充実、不祥事の根絶などを推進する。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）	次年度の主な課題
教務	授業規律を確立し、学習効果のある授業を目指す。	教材の準備、机上の整理を徹底させ、授業に集中できる教室環境整備に努める。		
		出席や成績の状況等に係る保護者との連絡を行い、連携して就学・修学に努める。		
	基礎・基本の学力を定着させるとともに、生徒のニーズに応じた学力の伸長を図る。	授業の内容・方法を工夫し、生徒の実態に応じた授業づくりに努める。		
		すべての授業で、生徒が主体的に探究できるような授業づくりを目指す。		
生徒指導	基本的生活習慣の確立を目指した生徒指導に心がけ、安心して楽しく学べる学習環境を整備する。	校内巡回時の声かけや挨拶等を通じて、生徒と教職員の相互理解に努める。		
		職員間の情報共有を密に行い、いじめや差別を許さない環境づくりに努める。		
	生徒会活動を通して学校行事の企画力を育成するとともに、豊かな人間性の涵養を目指す。	生徒会執行部生徒の自主性を育成し、適切なアドバイスに心がける。		
		学校行事の活性化を通して生徒の自尊意識の向上を目指す。		
進路指導	生徒の進路実現に向けた意識の向上を図り、主体的な自己実現力を育成する。	資格試験の受験を促すとともに、受験生の合格率を高める。		
		生徒の情報交換を積極的に行い、外部機関と連携した支援を継続的に行う。		
		生徒の発達段階に応じた進路講演会や進路ガイダンスなどを実施する。		
	在校生の就業機会を確保・促進する。	アルバイト情報を提供するなどの就業意識を高める取組を継続する。		
		進路学習の履歴となるキャリアパスポートを充実させ、生徒の進路意識を高める。		
研修・庶務	充実した研修を実施し、教職員の資質・能力の向上を図る。	本校定時制の実態に沿った研修内容を検討し、企画立案する。		
		校外研修の参加案内及び充実した校内研修の企画を推進する。		
		校外における研修内容の共有化を図り、定時制全体の教育力向上を目指す。		
	教育環境の整備・充実を図る。	全日制・定時制との施設共用を円滑に行い、教育活動の充実を図る。		
		奨学金等の分かりやすい案内に努め、就学並びに修学の保障に努める。		
情報・図書	ICT機器の活用促進を図る。	電子黒板やChromebookなどのICT機器を効果的に活用するための研修等を行う。		
		学校ホームページを適宜更新し、積極的な情報発信を行う。		
		すべての生徒への連絡手段としてClassroomを活用していく。		
	検定資格の取得促進と図書館利用の普及を図る。	各種の検定取得に向けた指導を行う。		
		様々な検定資格の取得に繋がるような本を図書館の新刊購入時に検討する。		
		購入図書希望調査を5月・9月・1月に行うとともに、適宜、新刊案内を行う。		
保健	心身の健康に関する指導の充実を図る。	健康診断等を通して、健康を自己管理しようとする態度の育成を図る。		
		「ほけんだより」等を定期的に発行し、心身の健康への意識を高める。		
	健康相談活動の充実を図る。	生徒の安心・安全につながるよう、積極的な情報交換を行う。		
		SCやSSW等と連携した上で、必要な教育的支援を継続して行う。		
		各分掌と連携し、生徒が安心して相談できる環境づくりに努める。		
人権同和教育	安心して通える学校づくりを促進する。	生徒の人権が守られる教育環境の整備に努める。		
		自己肯定感や自尊感情を育み、人権意識の涵養を目指す。		
		特設授業だけでなく、学校の全教育活動を通して生徒の人権感覚を育む。		
	人権教育に関する職員研修を積極的に実施する。	人権に関する様々な情報を広報し、研修会に参加しようとする環境を整える。		
		人権教育に関する各種研修会への、職員の積極的な参加を促す。		
		研修成果を職員間で共有し、人権感覚の涵養に努める。		

学校関係者評価

評価（総合）

自己評価は

A ： 適切である

B ： 概ね適切である

C ： やや適切である

D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目以外のものに関する意見

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・